

“水俣病の原因は工場廃液”

西田^元工場長が証言

会社側 初めて因果関係認める

熊地裁

水俣病裁判の第十回口頭弁論は五日午前十時五十分から熊本地裁民事三部会藤次郎裁判長係りで開かれ、前日に引き続き三十二年から三十五年まで水俣工場長だった西田栄一氏(会)と東京都杉並区海福寺・現チツソ監査役十の証人尋問が行なわれた。この日も原告側の主張問だけが行なわれ、原告は三十四年十月に会社が国会議員舘野賢一に公表した第三次の反論書「水俣病原因物質としての『有機水銀説』に対する見解」を中心に「会社は自分に有利になるように書き換えたり、化学常識を逸脱した反証をあげている」と追及したが、西田証人は「書き換えたり、有利な数字だけを採用したかどうか知らない」と答えた。ただ、水俣病の原因については「アセトアルデヒド精製過程に生じたメチル水銀である」とことをはっきり認めた。

患者たち、安どのため息

「と思うか」との質問には「チツソ水俣工場のアセトアルデヒド精製過程に生じたメチル水銀です」と



西田元水俣工場長

尋問時間をめぐって被告の会社側弁護団から異議が出されたため、開廷が五十分遅れた。原告はこの日新たに反論書(「見解」)の下書きのために半日前に水俣工場を出されたガリ版刷り

の書類(「第一報」)を証拠として提出。「第一報」と「見解」の間の相違についてたし、「第二報」にある根拠からメチル水銀を抽出しようとした実験が「見解」から落ちているのは、この実験を載せることがヤブヘビになって会社に不利と判断したからではないか」と追及した。これに対し西田証人は「自分は知らないし、当時はその実験が抜けていることも気づかなかった」と答えた。

また「第三次反論書以後、会社が反論をしなくなったのは、ネコ四〇〇号実験によってアセトアル

デヒド工場排水が原因であることを知って反論できなくなったからではないか」と会社が工場排水によるネコ発症を知っていたのではないかという点を再び追及したが、西田証人は「発症は知らなかった。反論をやめたのは①経営庁などから会社の反論は懐疑、同庁が主となってつくられた『水俣病中央連絡協議会』で発表するよういわれたこと②反論のための反論として世間から批判が強かったため」と答え、ネコ発症は知らなかったことを繰り返した。

最後に「現在水俣病の原因は何

はつきり答えた。因果関係については無条件で会社側が認めたのはこれが初めてで、ヤジのとびかっただ法廷に二日間の証人尋問ではじめて原告患者たちの間に安どのため息がもれた。

次回(三月四、五日)に十一・十二回口頭弁論が開かれるが、二日とも西田氏の証人尋問が引き続き行なわれる。